



TAKUMA

Company Profile

50年を造る、100年を創る。

1938年に自分たちの技術で社会に貢献する精神のもと、
ボイラーを製造する会社からスタートしたタクマ。
環境への負担が少ないごみ焼却施設やバイオマス発電所、
地域の拠り所にもなるクリーンセンターなど、
50年以上必要とされるものを造り、お客様や地域の日々を支えています。

これからの私たちに求められていること。
それは、50年を造る技術やサービスを発展させ、
環境・エネルギーのリーディングカンパニーとして、
従来のはずにとらわれず、気候変動への対応や循環経済など、
100年先を見据えたサステナブルな社会を創っていくこと。

50年を造る、そして、100年を創る。

これはタクマの企業価値であり、私たちのミッションです。
創業時から変わらない想いを胸に、未来に向けて必要とされるものを生み出し、
お客様や社会に必要とされる企業であり続けます。

暮らしや産業に欠かせないタクマ

タクマは約90年間、多くの人の暮らしや産業を支えてきました。
ごみ処理施設や下水処理施設、エネルギープラントなど、
暮らしや産業に欠かせない施設の設計・建設（プラントエンジニアリング）、
そしてアフターサービスを通じて。
プラントを造り、支え続けることで、地球の環境保全と
エネルギーの安定供給に貢献しています。

一般廃棄物処理プラント

- ・ごみ焼却プラント
- ・資源回収プラント
- ・粗大ごみ破碎プラント
- ・バイオガス回収プラント

エネルギープラント

- ・非化石エネルギープラント（バイオマス等）
- ・産業廃棄物処理プラント

設備・システム事業

- ・建築設備（空調・給排水衛生・消火設備）
- ・半導体・電子デバイス産業用向け各種装置

水処理プラント

- ・下水污泥焼却発電プラント
- ・砂ろ過装置

民生熱エネルギー事業

- ・貫流ボイラ
- ・真空式温水発生機
- ・熱媒油ボイラ
- ・ハイブリッド給湯システム

事業セグメント

タクマグループは主に国内外で環境・エネルギープラントのEPC(設計・調達・建設)とアフターサービス(運転管理、メンテナンス、運営事業)を行っています。

環境・エネルギー(国内)事業

各種プラントのEPC(設計・調達・建設)とアフターサービス(運転管理、メンテナンス、運営事業)



一般廃棄物処理プラント

- ・ごみ焼却プラント
- ・資源回収プラント
- ・粗大ごみ破碎プラント
- ・バイオガス回収プラント



エネルギープラント

- ・非化石エネルギープラント(バイオマス等)
- ・産業廃棄物処理プラント



水処理プラント

- ・下水污泥焼却発電プラント
- ・砂ろ過装置



環境・エネルギー(海外)事業

各種プラントのEPC(設計・調達・建設)とアフターサービス(メンテナンス)

- ・廃棄物発電プラント
- ・バイオマス発電プラント



民生熱エネルギー事業

各種熱源装置の製造、販売、アフターサービス

- ・貫流ボイラ
- ・真空式温水発生機
- ・熱媒油ボイラ
- ・ハイブリッド給湯システム



設備・システム事業

- ・建築設備(空調・給排水衛生・消火設備)の設計・施工
- ・半導体・電子デバイス産業用向け各種装置の販売、アフターサービス

タクマの沿革とイノベーションの歴史

当社の歴史は日本初の純国産技術によるボイラ発明に端を発し、ボイラの技術を活かして日本初の全連続機械式ごみ焼却プラントを納入するなど、世の中に必要とされる製品や技術を業界に先駆けて開発してきたというイノベーションの歴史でもあります。これらの技術を活かし、現在では環境とエネルギーの分野を中心に、エネルギープラントや一般廃棄物処理プラント、水処理プラントなどのプラントエンジニアリング事業を手掛ける企業グループへと成長してきました。

- 1912年

創業者田熊常吉が「タクマ式汽罐」を発明
- 1930年

田熊常吉が明治・大正年間十大発明家として表彰
- 1938年

田熊汽罐製造株式会社(現 株式会社タクマ)設立
- 1942年

播磨工場操業開始
- 1949年

業界初「バガス焚ボイラ」を輸出
- 1958年

ごみ焼却プラントや水処理プラントの環境設備部門へ進出
- 1961年

京都工場(現 株式会社日本サーモエナジー京都工場)操業開始
- 1963年

日本初の全連続機械式ごみ焼却プラントを納入
- 1965年

廃熱ボイラ付き産業廃棄物処理プラントを初納入
- 1972年

株式会社タクマに社名変更
- 1973年

国内初の熱回収ボイラ付き階段式下水汚泥焼却炉を納入
粗大ごみ破碎・選別プラントを初納入
- 1975年

世界初、真空式温水発生機「バコティンヒーター」量産化
- 1979年

上向流移床型砂ろ過装置「ユニフロサンドフィルタ」を初納入
- 1986年

海外で初めてごみ焼却プラントを納入(米国)
- 1998年

国内最大規模のごみ焼却プラントを納入
- 2005年

タクマ汎用機械株式会社と荏原ボイラ株式会社が合併し、株式会社日本サーモエナジーと改称
- 2010年

欧州で廃棄物発電プラントを納入(英国)
- 2013年

タクマ太陽光発電所稼働開始
- 2015年

株式会社タクマエナジーを設立、新電力事業を開始
- 2019年

遠隔監視・運転支援拠点「Solution Lab」を開設
- 2020年

タクマビル新館(研修センター)竣工
- 2023年

播磨工場更新工事了
アフターサービス拠点「Supply Lab」を開設



創業者
田熊常吉



1963年
日本初の全連続機械式
ごみ焼却プラント

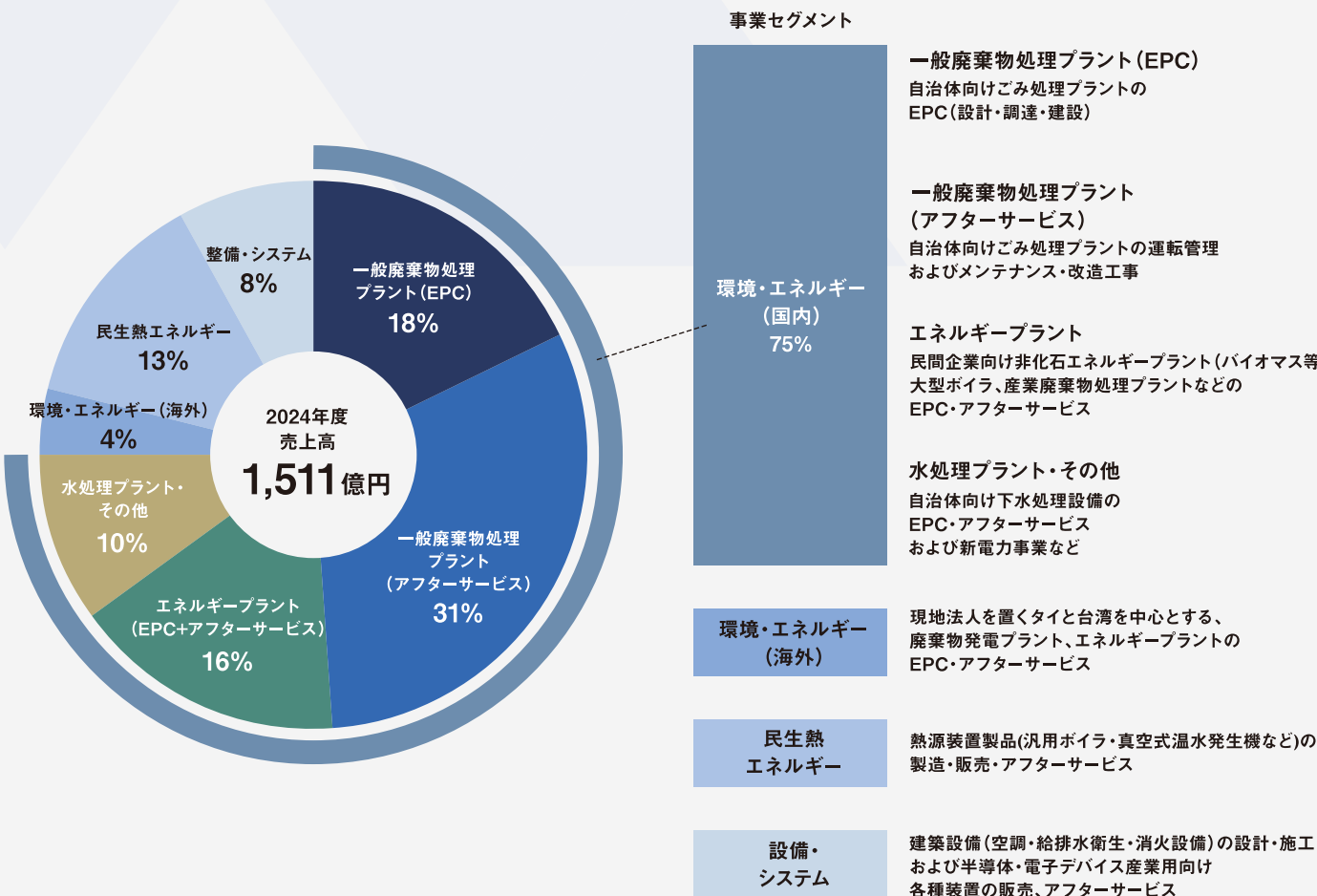


1975年
世界初、
真空式温水発生機
「バコティンヒーター」
量産化



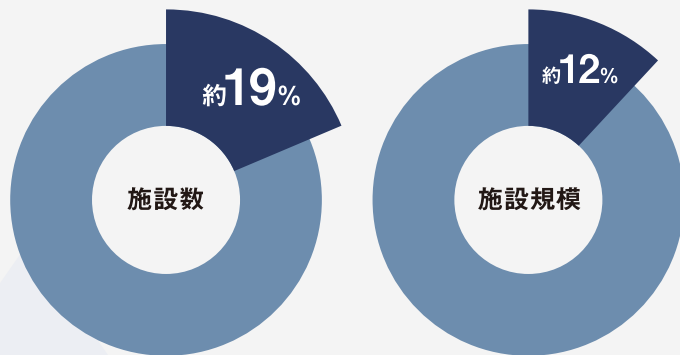
2023年
播磨新工場

事業セグメント別売上構成



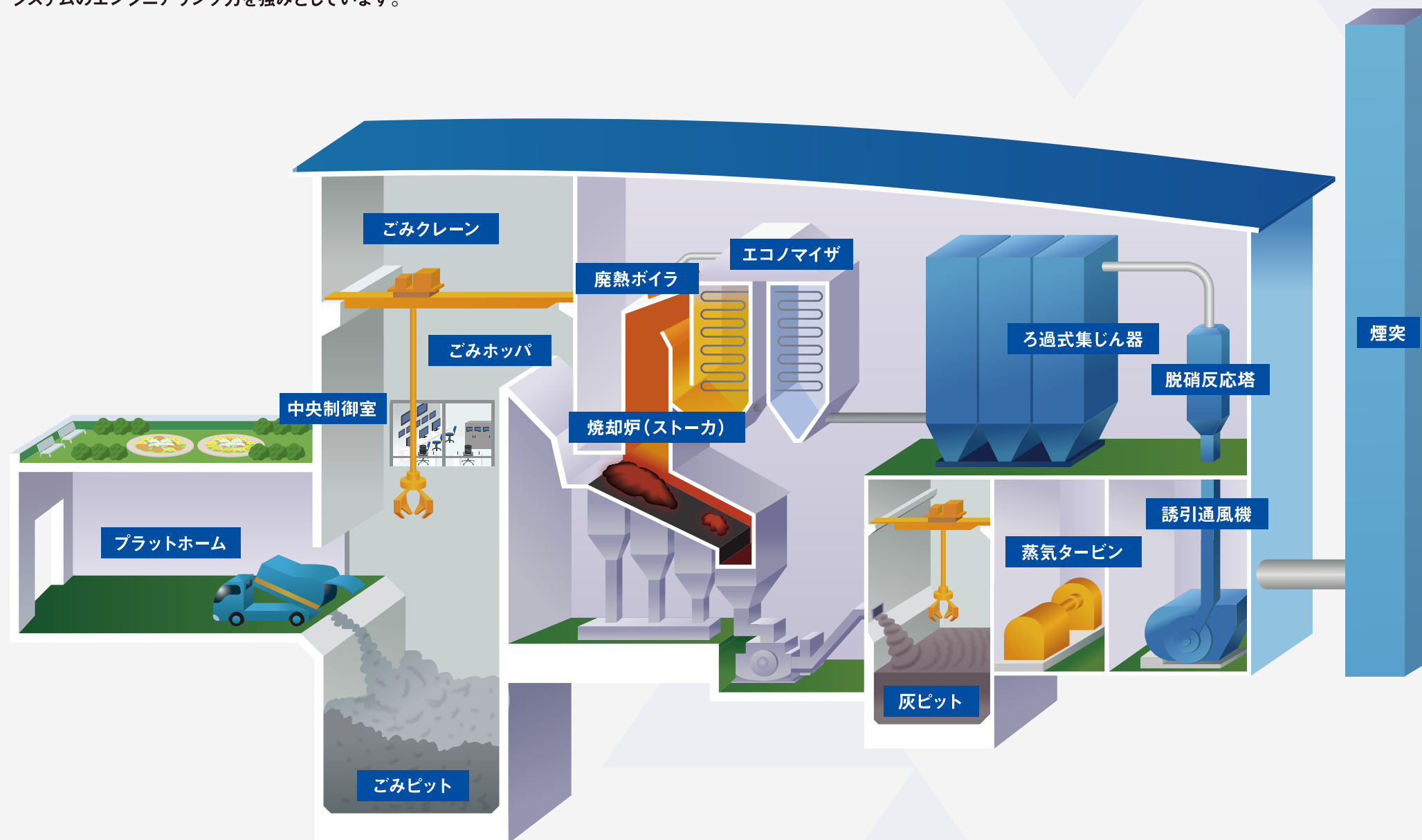
納入シェア国内トップクラスの一般廃棄物処理プラント

1963年に国内初となる全連続機械式ごみ焼却プラントを納入して以来、2025年現在までに国内最多となる約370施設を納入し、国内累計納入シェアでも施設数・施設規模ともにトップを誇ります。そのうち現在も約110施設が稼働中です。日本の人口の1/6にあたる約2400万人分のごみ処理を行い、多くの人々の暮らしを支えています。また、エネルギープラントや水処理プラントの納入数もトップクラスを誇り、再生可能エネルギーの普及や環境保全に貢献しています。



タクマのプラントと技術力

ボイラの据付技術から発展し、アフターサービスでの経験やノウハウを通じて培った、建設から運転・メンテナンスまで含めたライフサイクル全体を考慮した独自のプラントやシステムのエンジニアリング力を強みとしています。



AI燃焼技術

AI燃焼制御システム「ICS」を導入してごみ焼却炉の手動操作を99%削減。またSolution Labからの遠隔監視・操作により、従来と比べて少ない2名の運転員で施設を安全に安定して運転できる技術を確立しました。

Solution Lab

プラントの運転状況、稼働状況を24時間体制で遠隔監視、運転支援を行っています。最新のICT技術を活用した質の高いサービスを推進し、お客様にとって最適なソリューションの提供と、さらなる安心・安全な施設運営の実現をサポートしています。



1 燃焼技術

ボイラの燃焼技術をコアに発展し、バイオマスや家庭ごみ、下水汚泥など様々な燃料や廃棄物を安定的に燃焼させます。

2 熱回収技術

高温高压ボイラをはじめとするさまざまな技術を用いたシステムにより、廃棄物や燃料が持つエネルギーを蒸気や電気として最大限有効活用します。

3 排ガス処理技術

排ガスに含まれるばいじんや、酸性ガス、ダイオキシン類といった有害ガスを除去し公害を防止します。

4 運営・アフターサービス

施設の機能を最大限に発揮させる運転管理やトラブルを未然に防止し、プラントを安全かつ安定的に稼働できるよう定期的な点検やメンテナンス、大幅な改修工事を行い、安定運転を実現します。

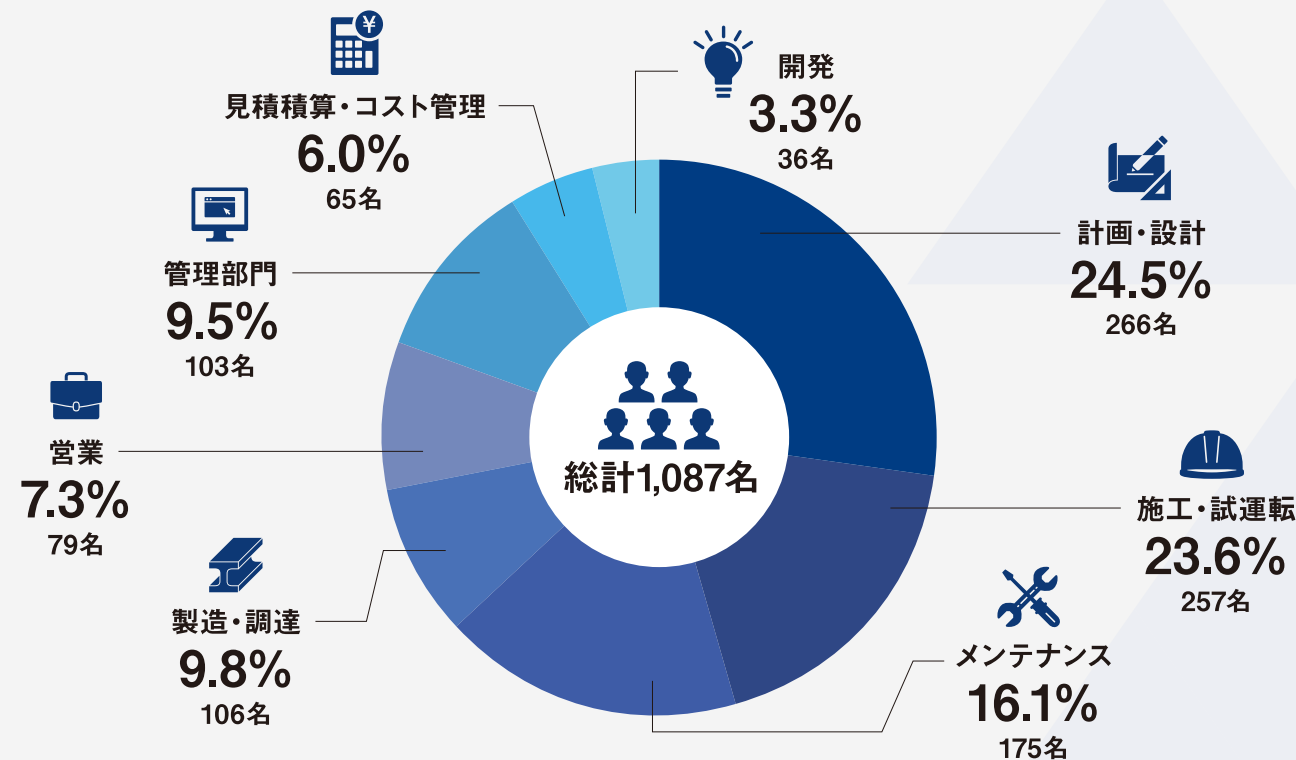
タクマができること

計画から竣工まで社内で一貫したエンジニアリング体制を構築し、お客様の求める仕様・性能を満たすプラントをつくりあげ、また竣工後はお客様が日々運転・運営される中での課題やトラブルに対して迅速に、真摯に対応し解決することで、お客様との信頼関係を積み重ねています。

計画からアフターサービスまで一貫したエンジニアリング体制



スペシャリストで構成されたタクマの部門



タクマの納入実績 (2025年3月末時点)

一般廃棄物処理プラント
国内外370施設以上



リサイクルプラント
国内90施設以上



バイオマスプラント
国内外650基以上



産業廃棄物処理プラント
国内外120基以上



階段式下水汚泥焼却炉
国内20基以上



上向流移床型砂ろ過装置
国内2,900台以上



